

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム栄寿荘
(ユニット名)	Ⅱ
所在地 (県・市町村名)	佐賀県杵島郡江北町大字上小田280-1
記入者名 (管理者)	相原 佐多子
記入日	平成 21 年 11 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の「人としての尊厳」が損なわれることなく、地域の中で生き活きとその方の役割をはたしていただくような施設理念を、管理者、職員で協議しながら作りあげた。	○	常に地域の中で当事業所の果たす役割を確認し、自らを省みできるようなスタッフの育成を図っていきたい。(研修や自己啓発の機会の充実)
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は統一した理念の下、理念の実践に日々努力を行っている。	○	日々の業務の煩雑さの中で、ともしれば曖昧に流されていくことを常に戒めながら理念の実践を追求していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設理念を家族や地域の方、来訪者の方々にもわかりやすい位置に明示するとともに、啓蒙活動も積極的におこなっている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	誕生会や夏祭りなどの行事には地域ボランティア、他へ呼びかけ、定期的に交流をはかっている。又、反対に地域の行事、イベントの情報もいただくことで、施設から地域への活動も良好に実践できている。近隣の方や利用者の馴染みの方々へも日頃より声掛けし、気軽な立ち寄り場として活用いただくよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域区長や老人会会長、民生委員とは常に連携、情報交換することにより、地域行事やイベントへの積極的な活動が良好に実践できている。又、地元のくんち太鼓や保育園児の定期的なお遊戯慰問などで交流の機会を多く持たせて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町社会福祉協議会への活動協力やチャリティー募金へも積極的に参加行っている。又、民生委員や地域有志の方々に向けて「地域の中での認知症ケアの在り方」について研修の機会を設けた。	○	今後も地域にむけて(たとえば、町の会合や老人会など)認知症専門の施設からケアの情報を伝える機会や方法を積極的に検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎回、事前に必ず第三者評価を受けることについての意義を共有し、行政実地指導や第三者評価後の指摘事項については、スタッフミーティング時に伝達し改善努力おこなっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月ごとの入居状況、行事報告に加え特異ケースについては事例報告行い参考意見などいただきながらケアに生かすよう会議を活用している。その中でケアプラン作成の流れについても施設側からの説明を実施した。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設運営上の疑問や問題点などは逐一、市町村へ伺いたたながら利用者へのサービス向上へ取り組んでいる。又、施設側からの意見なども積極的に伝達できるよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設全体として「福祉権利擁護」について常に関心を持ち、利用者様、家族様はもとより地域の方々へも助言、関係機関などへの紹介ができるよう支援おこなっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングや施設内研修の場において常に「人権意識」を念頭に置き「高齢者虐待防止」について話し合う機会を設けている。管理者も第三者的視線を重視しながら利用者の人権が損なわれていないかのチェックおこない、虐待の防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前には可能な限りご本人、家族様で施設見学していただき、直にGHの生活の雰囲気を感じとってもらった上での契約をお勧めしている。見学の際には先方様の不安、要望などもお尋ねしながら、施設サービスの内容などを十分に説明し理解していただくよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何よりも利用者様が意見や不満を出していただけるような、遠慮のない施設の雰囲気やスタッフとの関係作りに努めている。又、ご家族の面会も積極的にお願ひし、ご家族様を通して、ご本人様の希望などを聞きとりながらケアに生かすよう努めている。玄関には苦情相談のポスターを掲示し苦情、意見が滞ることのないよう配慮している。	○	入居者様が直接意見を言って頂く事はスタッフにはあるが、外部の方におっしゃられる例はほぼなく、行政より生活相談員の受け入れ以外にも、外部の方たちとの交流の場を設けていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず、生活のご様子や健康状態報告しご家族様と相談しながら連携図っている。月毎の「荘便り」や「個人便り」などでも個別に暮らしぶりが細やかに伝わるような写真など添えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談のポスターを玄関に掲示したり、GH運営推進会議にも家族会より委員として出席していただき、意見の集約に努めている。意見箱も施設内に常設し、不満や苦情は真摯に受け止め改善へ繋げるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送り、や各月のミーティング時はもちろん、随時、広く意見の交換おこない、施設運営に反映できるよう努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	3対1介護の職員配置は厳守されており、管理者をはじめ全職員が「利用者主体のケア」を下に勤務時間の調整を行っている。外出や行事には安全面の配慮や利用者様の満足が得られるよう、基準以上のスタッフ配置している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での人事異動は熟慮の上で施行し、利用者様の心理的負担の無いことを優先している。職員採用の際も「認知症ケア」の特異性に重きを置くような人選を行っている。	○	スタッフにも心理的にも配慮し、管理者も周囲に打ちとけやすい、取組という視点も大事に学んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上を図るため各スタッフの立場、経験、習熟度に応じ事業所内外の研修へ積極的に参加させている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の見学や交流はオープンであり、互いの総合評価などを通じ連携を深めている。同一介護保険区域のホーム管理者とは特に情報交換を密にし、GH協会の取り組みへも参加することで常に新しい情報を得る努力をおこなっている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員個々との対話の機会を多く持つように努め、不満やストレスは早期に受け止め改善できるよう努めている。休憩室は別棟にあり、業務と休憩時間とのバランスも良好にとられていると思われる。又、職員とも職場環境を整えストレス要因を率直に話し合える関係作りに努力している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士、介護支援専門員など専門資格の取得を推奨し、資格取得にむけての研修などへの支援を積極的におこなっている。	○	認知症実践者研修や認知症リーダー研修へのスタッフ派遣や派遣スタッフによる荘内研修を積極的に行ってきたい
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談はご家族や関係機関を通じあがる例が多いが、入荘に至る経緯の中でできる限りご家族とともに施設見学して頂き、直接に施設の印象や要望などをお聞きする機会を設けている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者はもちろん、個々スタッフも初期相談の受け入れ時から和やかな雰囲気に対応するよう心掛け、ご本人やご家族の不安、要望には傾聴しながら信頼関係を築くよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の段階から施設ケアマネージャーも同席し、ご本人やご家族の抱えられている問題について十分な聞き取りを行い、ほかの福祉サービス情報の提供もできている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入荘の事前にご本人の生活歴を十分に聞き取ったり、馴染みの品々をそばに置くことなどで新しい環境への不安が軽減できるよう配慮おこなっている。又、ご家族へも認知症ケアの特異性について理解いただき、ご家族との連携、支援をお願いしている。	○	センター方式のシートの活用を考慮しており、またスタッフにも生活歴や尊厳を大事にしたケアを考える場を提供している
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人がこれまで果たされてきた役割や経験は何よりも尊く、GH内で共に生活を営む中で「学び」を得る機会が多いと真摯に感じている。スタッフ個々の個性を好ましく発揮しながら、利用者との信頼関係が築けるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族をご本人の最も大切な支援者としてとらえ、細やかにコミュニケーションとるよう努めている。スタッフとの遠慮のない気軽な関係を目指すことで率直なご意見いただいたり、ご家族より相談があがった時も一緒に考え、ケアに生かすよう努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族の関係、関わり方はそれぞれに異なっていることを理解し、個々の在り方を尊重しながら、キーパーソンの方を中心により良い支援を心掛けている。面会の折りや月毎の「お便り」ではご本人の日々の様子を写真やエピソードを添え細やかにお伝えしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもとより、近隣の友人やご親戚の方たちへも気軽にお訪ねいただくよう、日頃から親しく声掛けおこなっている。又、地域の行事(祭り、文化祭、運動会など)へもできる限り参加できるよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の段階に応じグループ活動が困難な利用者に対してはスタッフが個別に対応したり、介在することで決して「孤立」のないよう支援に努めている。又、利用者同士のトラブル(過干渉)時には適時にスタッフが介入し深刻化しないような配慮、誘導おこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了(入院や移設など)されたのちも、面会や様子伺いなどおこない、ご本人やご家族への側面サポート(相談、助言など)の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、買物に行きたいと要求される方については、ご家族の負担が大きくなるため 曜日を決めて行かれるよう ご本人に説明し納得された上実行、三者一体の意向を折込み支援している。	○	三カ月に一回のカンファレンス時に それぞれの担当者が、ご本人とご家族にご希望、ご意向を尋ねている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前使われていた仏壇や仏像や家具などを、自室に置いてご自宅での習慣を続けておられたり、その方の馴染まれた環境の中で暮らしていただける様、支援している。	○	ご家族の協力を頂き、それぞれの方がよく行かれていた地域の、イベントに参加して頂き、そこに暮らしていた頃の懐かしい思い出に心を癒して頂きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントを6ヶ月毎に行い、プランの実行中も介護経過の記載や日々の記録等を参考にしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム内で意見を出し合い、集約できるような書式を作成して、サービス担当者会議でご家族やDr、介護スタッフの意見を反映できるようにしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は状況に応じて期間変更を行っており、その都度カンファレンスの開催やご家族との話し合いを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設介護経過の記載を行いつつ、申し送り簿やケース記録への記載、閲覧を各自で行っている	○	情報共有という観点では、まだ甘くセンター方式のシートを一部アセスメントシートやフェイスシートに導入してみたいと思っている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者さまの突発的な受傷や病変など緊急事象には家族への連絡とともに併設している医療機関との連携おこない柔軟な対応、支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の各機関、団体組織とは日頃より連携を密にとり、情報を得ながら、利用者さまの地域との協働にむけ支援おこなっている。本年も、積極的に地域行事などへの参加ができた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外部居宅支援事業所との連携を図り、ご利用者様の生活歴等入荘以前からの情報を活かすように配慮している	○	今後も引き続き居宅支援事業所や包括支援センターとの密な協力体制を構築していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	江北町包括支援センター職員の方に運営推進会議に参加して頂きケアに対するアドバイスを頂いている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の信頼関係にあるかかりつけの医師への受診を第一に考え、必要時には連絡調整など支援おこなった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>まだホームでの看取りの実績がない(病院が隣接している)ので、今後も職員には意識の向上を図っていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後も悪性疼痛だけでなく、良性疼痛への緩和のアプローチを行っていききたいと思います。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>居宅新事業所のケアマネージャーと協議し、在宅での生活歴の情報を活用していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の尊厳、プライバシーの尊重を常に念頭に置き対応をこころがけている。個人情報守秘義務を徹底し記録など不用意な持ち出しは厳禁としている。	○ 常に自分の人権意識を自省しながら日々の業務に当たるよう努力していきたい。業務の始まりには全員で、「ホーム理念」、「五省」を唱和することで内省をうながしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	細やかにコミュニケーションをとることでご本人のニーズを把握するように努めている。しかし、認知症の状況によっては訴えの内容がつかみきれない場面が多々あり、対応については十分とはいえない。利用者の個別性を大切に潜在ニーズの把握に努力したい。	○ 職員間の情報の共有や資質の向上のための研修や、資格取得のための取り組みをおこなっていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに沿った対応と心掛けているが、それでも業務優先、職員の都合を押し付けているのではという反省が常にある。しかし、その場合でもしっかりと利用者への説明、理解を得た上でと努力している。	○ その人らしさと言う事をもっと追究し、こちらのペースの押し付けではなく、ご本人の潜在的なニーズをつかみとれるような感覚をみにつけていきたい。プロセスレコードを定期的を書いてもらい、振り返りの場を提供する等、介護の質向上に努めたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人や家族へ希望を聞き、いきつけの店への予約や手配おこなっている。又、可能な限り送迎もご家族へお願いし協力いただいている。	○ 認知症により、身だしなみや「お洒落」に関する興味が薄らいでられる利用者様についても、常に気を配りながら「ご本人らしさ」が損なわれないようつとめていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の力に合わせ食事の準備や配膳、片付けも分担しながらおこなっており、それぞれに役割を果たされている。又、庄の畑にささやかな季節の野菜を栽培し収穫されたものを食卓に利用するなどして楽しみにつなげている。季節毎に漬物作りや干し柿作りで利用者、職員の共同作業を楽しんでいる。	○ 野菜作りも利用者(経験者)のアドバイスが適時有効にいただけており、今後も職員も楽しみながら続けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、火災防止やご本人、他者の健康への配慮から喫煙については禁煙をお願いしている。入荘前に説明行い了解得られている。飲酒についても他者への暴力の危険あり、家族からの強い要望で禁酒支援おこなっている。現在のところ、どちらも良好な経過みられている。	○ 誕生会などの祝宴の始まりには手作りの果実酒(利用者のご自宅に実った果実・ノンアルコール)で乾杯し雰囲気を楽しんでいただいている。本年も「花梨」が届き、楽しみに待たれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケアプランに基づき、個々の排泄パターンを把握しながら適時誘導や排泄介助おこなっている。又、便秘傾向みられる利用者や、腸閉塞など予測される利用者の排便確認は徹底しおこなうようにし、腹部マッサージも定期実施し良好な経過みられている。	○	尿漏れの頻度や尿量によって、尿パットの形状も個々の状況にあったものを細やかに見直し検討していくこと、又、排泄誘導の言葉かけやタイミングも工夫しながら利用者の快適な排泄環境を整えていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴介助おこなっているが、曜日や時間帯は施設主体で決めているため、利用者のニーズにあった入浴支援とはいえない。足浴やシャワー浴の希望には随時対応するよう心がけている。又、入浴拒否の利用者へは無理強いを避け、清拭やタイミングをみて再誘導試みるなどの対応行っている。今回、「入浴介助」について課題をあげ、施設内研修おこなった。	○	施設内研修後のフォローアップし、入浴ケアの質の向上を図っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調に配慮しながら不眠傾向にあられる利用者については外気浴や散歩、他、昼間の活動を多くとっていただくよう援助おこなっている。就寝の時間についても個々の生活のペースに基づいたものとしている。	○	夜間の睡眠状況を個別に観察おこない、DRと相談しながら眠剤などの調整が必要と思われる。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人々の個性を大切に、荘での生活の中での役割を果たしていただけるよう支援おこなっている。(食事の準備から片付け、洗濯から収納までの作業、自室や共有室の清掃他) 又、誕生会や屋外での活動など年間を通し計画を立て楽しみ行事を企画実施している。	○	個別の気晴らしの買い物や外出など十分に希望に添えていない部分もある。現在、天候の良い日には、利用者にとっての馴染みの場所へおつれし、戸外の風景にふれていただくと言う「近隣ふるさとドライブ」を大変喜んでいただいております、今後も安全を徹底しながら実施していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や家族の方と十分に相談し理解のもと、自己管理されている方、職員預かりを希望され職員の方で支援おこなっている方と個々であるが、いずれの方も自由に希望に応じた使用ができるよう援助おこなっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ希望にそえるよう努力し対応しているが、決して十分とは言えない。買い物についても、職員の業務(都合)にあわせての援助であり、ご本人主体のものにはなっていない。しかし、可能な方については希望に応じ、自宅にて一定時間過ごしていただくようなケアもおこなっている。	○	業務の見直しやボランティアの活用など検討しながら、ご本人の意思を尊重できるよう努力していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設で対応困難な際も家族の支援協力を得られるよう、日頃より家族との連携を深めるよう努力おこなっている。	○	ご本人は何よりも家族とのふれあい、交流に幸福や満足を感じられている。今後もできるだけそのような機会を持っていただけるような働きかけをおこなってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望されるときはいつでも自由に家族との連絡取れるよう支援おこなっている。手紙、電話のやり取りはもちろん、聴覚障害をもつ家族へはFAXやメール連絡などで対応おこなっている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人など親しい方たちの面会時は自室でもDルームでもくつろいで時間を過ごしていただけるよう場面の設定をおこなっている。近隣の知人の方へも気軽に立ち寄っていただくような声かけし、実際にたびたび面会いただいている。	○ 面会室や面会コーナーなどの限定された場所は現在のところないが、今後工夫、検討してみたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に対する考え方をスタッフで協議し、安全面で止むない場合以外での拘束の件を話し合い、拘束予防に努めている。不穏状態による徘徊にも抑制せず、付添いながら精神安定を試みている	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	共同生活の中で自由で開放的な環境を提供する事は、入居者の心身に活動性と好奇心を養う事と理解し、特変時以外は日中の施錠はしない。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人のプライバシー尊重しながらも、絶えず所在、安全確認に努めている。	○ 見守りの徹底がご本人様の心理的圧迫にならぬような配慮や工夫が必要と思われる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等危険物については、本人に説明、納得された上でお預かりたり、ご家族族に保管して頂くよう相談している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止についてはバリアフリーやルームシューズは足にフィットし滑り止めのついたものを使用している。玄関内部にもセンサーを設置、チャイムがなり、離荘防止をはかっている。年二回防災訓練を実施している。配薬する人と薬を手配する人とダブルでチェックしている	○ 口中介助が必要でない方についても、確実に服薬されるまでの見守りが必要と思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	緊急時対応の研修派遣と派遣者の他スタッフに対する荘内研修や消防との連携による救急救命の講座の依頼等を行っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	緊急避難所は同一敷地内の併設病院が確保されているが、近隣地域の方の協力得られるよう、今後も密接な関係作りに努めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	○	個別のリスク検討をおこないながら、対応策をもっと積極的に講じていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○	スタッフ全体が危機意識を向上させ、細やかな観察や連携おこなう事で異変時の早期対応に努めていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○	便秘対策は個別に工夫しながら支援おこなっているが、今後もチェックを確実にしながら深刻な便秘に至らぬよう配慮していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○	個別の口腔内を把握し、歯ブラシなど口腔ケアの環境整備を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○	カロリー食の工夫など検討していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○	今後も衛生面の環境に配慮していくことはもとより、ご本人たちの体調や季節、日々天候にあわせた空調環境を整えていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○	認知症の進行、加齢とともに作業力が低下されておられる方については、ご本人の力にあったものへ誘導し、不安や戸惑いがないよう支援おこなっていききたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)